平成29年１月　市長定例記者会見

2017年１月４日(水)

午後２時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成29年１月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表の質疑応答終了後に、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですけれども、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。

終了は15時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】　皆さん、新年明けましておめでとうございます。どうかことしもよろしくお願いいたします。

年賀会でも冒頭のお話でもさせていただいたんですけれども、敦賀市、いろんな課題がまだ山積でございますので、去年にも倍増して頑張っていきたいと思いますので、ぜひとも皆さんのお力も、ご意見も賜りますようよろしくお願いします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】　それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】　事業発表をいたします。３項目あります。

１つ目は、「新幹線敦賀駅舎デザインコンセプト」決定に伴う伝達式及び感謝状授与式の開催についてであります。

本市は、新幹線敦賀駅舎の建設主体である鉄道・運輸機構に要望するデザインコンセプトを決定いたしました。コンセプトは「空にうかぶ　～自然に囲まれ、港を望む駅～」であります。

本コンセプトを要望するに当たり、伝達式を開催するとともに、決定されたデザインコンセプトのフレーズとして採用された３名の方々に感謝状の授与を行います。デザインコンセプトは、建設主体である鉄道・運輸機構が駅舎をデザインするベースとなる言葉で、市民から募集した48件から、委員会等での議論や市民ワークショップの意見などを参考に決定いたしました。

デザインコンセプトの決定に当たり、委員会などから賛同する意見が多かった３案から「空にうかぶ」「自然」「港」のフレーズを採用させていただき、１月17日の伝達式において、この３案の提案者に対し感謝状の授与を行うとともに、私とともに鉄道・運輸機構へデザインコンセプトの伝達を行う予定であります。デザインコンセプトの伝達後は、鉄道・運輸機構から本市のコンセプトを踏まえたデザイン素案が平成29年秋ごろ、複数案――大体３案と伺っておりますが――示される予定で、委員会等の意見を伺いながら駅舎のデザインを決定していく予定であります。

２つ目としまして、敦賀消防団出初式の実施についてであります。

消防団員の士気の高揚を図るとともに、近代消防装備、精錬された消防団員の意気を公開することにより市民の防災意識を高めることを目的として、平成29年１月９日月曜日に新春恒例の出初式を挙行します。また当日、きらめきみなと館イベントホールにおいて、敦賀消防団消防鳶隊「つるが鳶」によるはしご乗り演技を披露いたします。どなたでも入れますので、よろしくご観覧ください。

それから、３点目でありますが、文化財火災防ぎょ訓練の実施についてであります。

当訓練は、先祖から継承されている貴重な財産を火災から守り、長く後世に伝えていくため、また消防職団員の火災防ぎょ活動技術等の向上と文化財保有関係者の初期行動能力を高め、あわせて市民の文化財に対する関心と防火意識の高揚を図ることを目的として、毎年、文化財保存施設において実施しているものであります。第63回文化財防火デーを迎えるに当たり、平成29年１月21日土曜日に栄新町の天満神社において実施するものであります。どうぞよろしくお願いします。

発表項目は以上３点です。

【秘書広報課長補佐】　ありがとうございました。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】　明けましておめでとうございます。ことしもどうぞよろしくお願いします。

駅舎についてなんですけれども、このコンセプトが決まったということで、市長の印象、感想を一つと、敦賀市はいろんな鉄道関係の遺構などを観光資源化しようとされていますけれども、そういった鉄道自体を集客という点で、この駅舎に期待することはどんなことか教えてください。

【市長】　デザインコンセプトにつきましては、３案の中からピックアップしたということでありまして、新幹線の駅舎は高い位置にできると聞いておりますので、高さを生かした駅舎を周辺の景色と調和させることが大切であると認識しているところでありまして、非常にいい言葉じゃないかなというふうに思っています。このコンセプト案で「空にうかぶ」というと、一回行ってみようかなという気持ちになられるんじゃないかなと思っていますので、来ていただくことも期待するところでもあります。

「自然に囲まれ、港を望む駅」ということがありますから、人道の港というところも、港を望むというところで海が見えるというようなイメージになろうかと思いますので、ぜひともこのコンセプトでいい駅ができて、たくさんの人が来ていただけることを希望していますし、来ていただくためには敦賀の魅力あるまちということが必要になってきますので、また敦賀の魅力を磨いていきたいと思っております。

【記者】　出初めと文化財の火災防ぎょ訓練、これは毎年恒例だと思うんですけれども、何かことし新しいことがあればそれぞれ伺いたいんですけど。なければ結構ですが。

【市長】　それぞれあるかもしれません。文化財防ぎょについては、今回、建物なので持ち出すものがなくて、建物消火という形になるというふうに伺っています。

詳しくは、それぞれの担当から答えさせていただきます。

【敦賀消防署長】　それでは、消防のほうから答えさせていただきます。

年始恒例の出初式につきましては、今年度も取り立てて新しい行事はございませんが、時間的に、一斉放水からきらめき会場に移る際に５分間遅らせております。その以下の行

事は５分間ずれております。

文化財につきましては、今市長がおっしゃられたとおり、いつもですと建物の中に文化財がございましてその搬送訓練も行うんですが、今回は建物自体が文化財ということで、いかに水出しを早くするか、いかに初期消火がうまくいくか、そういったことに重点を置いてやりたいと考えております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】　それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、次第の３番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さんからお願いいたします。

【記者】　原子力に関してなんですけれども、敦賀市は長らく原子力を基幹産業としてきましたけれども、もんじゅの廃炉を受けて、原子力産業というのは市にとってどういう位置づけになるのか教えていただきたいのと、それと今後の展望。展望というと多分ハーモニアスポリス構想の水素産業なんかが出てこようかと思うんですけれども、トンネルとか、いろいろもんじゅの廃炉に絡んで国に要望などもされていますけれども、国に対してどれだけ支援を引っ張ってこられるか、実現可能性についてどのように捉えられているのか、お願いします。

【市長】　原子力というところの位置づけですけれども、１号機が廃炉になりまして、今もんじゅもこういう状態であります。ただ、２号機が審査ということで進んでいますので、原子力が基幹産業から外れていくということは今のところ考えていないということであります。ただ、原子力だけに頼っているということはもうできない時代になってきましたし、敦賀市の事情もそういうことでありますから、産業の複軸化ということを目指していくというのが一つ大事なことだと思っています。

原子力産業の中にあるいろんな技術ということを利用できた産業というのを展開していければいいんですけれども、それだけではなくて、電源があるからとか、そういういろんな電力を扱うノウハウがあるからということを使いながらもやっていくと。そしてまた一方では港とか近隣市町とお互いにウイン・ウインの関係をとりながら、港の活性化も含めながら交流人口とか技術の交流なんかも深めて何とかできないかな。ハーモニアスポリス構想になりますけれども、そういうことをしていかなくてはいけないと思っています。

今後の展望というか、要望の実現可能性ということですけれども、１号機の廃炉の中でエネルギー構造転換理解促進事業というのを、その中でどうやって敦賀市を求めていくかという中で、今、もんじゅに絡めてハーモニアスポリス構想を政府として支援しましょうというお言葉まではいただいたんですけれども、その後どういうふうに引き出していただけるのかというのはまだ闇の中なので、今からいろんなことを検討しながら、打ち合わせしながら決まっていくものだと思っています。

【記者】　水素産業についてなんですけれども、今年度中に国の調査費、事業費を活用して実現可能性を調査されていると思うんですけれども、水素産業を育成するためには大きな企業の誘致などが欠かせないと思うんですけれども、そこら辺は、もう３月末まで調査期間は結構迫ってきていますけれども、どのような感触になっているのでしょうか。

【市長】　今の感触については担当部長のほうが詳しいと思います。

【企画政策部長】　まず今年度です。28年度、29年度、30年度、３カ年かけまして調和型の水素社会形成計画という計画の策定を行います。今年度、去年までは、昨年度というか、ちょっとややこしいんですけれども、28年度につきましては、現時点におきましてはまだ企業調査の段階です。29年度に入りまして初めて計画策定という段階に入りますので、29、30年をもって計画策定。この終了後に各フェーズごとに分けまして段階的に実行段階に入っていくと。こういう形になってまいりますので、短期間での実行、今おっしゃったような企業誘致といいますか大きな企業の誘致とか、３カ年でとか４カ年でとか、そういった形での進捗のスピードはちょっと望めないのではないかというふうに考えております。

【記者】　昨年度末に文科大臣との面談で、地元の意見を聞いてほしくて、国との協議のような場を求めたいというお考えを示されたと思うんですが、その詳細な性質、性格、どんなものを想定しているのかとか、改めて今またご説明いただけたらと思うんですが。

【市長】　地元の意見ということなので、もともと私ども求めています、廃炉のときには使用済燃料をいつ敷地外に出していただけるのかとか、ナトリウムをどうしてもらえるのかとか、そういうことに対するお答えもいただいていないんです。もんじゅの廃炉措置をするにしても、じゃどんな体制でやっていくのか、地元が納得できるような安全が確保できるような体制でしていただくのかということも伝えていただいていません。1,000人の雇用ということについても、今のお答えの中では、何となくそのまま中で研究開発をしながら、廃炉の措置もしながら人員確保するみたいな雰囲気があるんですけれども、雰囲気だけで、はっきりした期限とか規模とかそういうこともはっきりしませんので、やはり私らの望んだ回答をくださいねということに対してはきちんと回答していただかなくてはいけないというふうに思っていますので、その中で議論をしていきたいと。

　また、今ほどお話に出ましたハーモニアスポリス構想ということも支援しますよということは言ってありますけれども、計画を支援するのか実際の事業を支援するのかということも具体化されていませんので、その辺の考え方というのもきちんと問うていかないとだめだろうなと思っています。

【記者】　具体的に、国と、例えばいつ、何月までに協議会とか懇談会を設けるとか、そういう考えは今ありますか。

【市長】　松野大臣が検討しますと言って持って帰られましたので、その後、記者クラブの皆さんも大分言っていただいたと思いますので、できるだけ早くということを望んでいます。

【記者】　廃止措置の計画が出される前までにはできるというようなお考えですか。まだわからないですかね、全く。

【市長】　恐らく敦賀市のほうからアプローチをかけないと何らかの答えを引き出せないと思っていますので、ことしまたアプローチをしながら、できるだけ早く、前倒しに答えをもらえるようにやっていきたいと思っています。今は何も予定はありません。

【秘書広報課長補佐】　それでは、各社伺います。ご質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】　先ほど水素産業の育成に関して、部局のほうから企業誘致の進展は望めないのではないかという話があったと思うんですが、３カ年度ではそこまでの話にはならないよということをおっしゃったんですかね。

【企画政策部長】　まず計画策定が３カ年を要するというふうな形ですので、その中で具体的なものが上がってくれば、部分的なというと変ですけれども、その部分だけ先行する可能性というのもあります。
【記者】　普通、ある程度見通しを持って、国内に限られた会社しかないわけですから、ある程度の見込みを立てて多分やっておられるんだと思うんですけれども、企業誘致の進展を望めないのではないかというふうに今おっしゃったけれども、そんな状態で３カ年度やるんですかね。
【企画政策部長】　企業誘致を望めないというわけではありませんので。敦賀市に持ってくるというか、優位性といいますか魅力というのを引き出したい。そうした中で民間企業等が進出したい条件というのはどういったものがあるか、そういったものを含めまして研究とか検討を加えた上で、できる限り民間企業の誘致を図っていきたいという中で、どれだけ出てくるかということでございます。
【記者】　もんじゅに関してなんですけれども、先ほど中日新聞さんのお話もあったように、説明などをまた改めて求めたいということですけれども、逆に去年の９月以降、方針が示されてから12月にかけて、市長、さまざまな局面で要請などを文科省、経産省、官邸などに行っていましたけれども、その中で青森と一度やられたと思うんですけれども、あれはせっかくできた団体だと思うので、結構なかなかインパクトもあったと思うんですけれども、またこの４月までに体制なども示されるということで、核燃料サイクルなどに対してもかなりの影響もあると思うんですけれども、そういうような動きとか、どういう形での要望みたいなのとか、今のところの展望とか、青森との関係とかというのをどういうふうに生かしていきたいかというようなお考えとかはありますでしょうか。
【市長】　青森と一緒にさせていただいていますので、そのことについては一度報告をして、どういう方向性を持っていくかということをご相談しなくてはいけないと思っています。それぞれ立地のお立場もありますし考え方もありますので、それで応援していただけるかどうかというのはもう一回確認してということになると思います。どういうタイアップができるかということも考えていかなくてはいけないと思っています。
【記者】　もう１問なんですけれども、きょうも原子力機構の仕事始めで、本部長や青砥所長のほうからも、自分たちは信用を失ったということも自覚されて早急に体制を整えなければいけないという決意も語られていますけれども、一方で西川知事も言っていますように、まだやはり安全に対する確認ができないということで不容認という立場をとっていますけれども、年末にもお聞きしましたけれども、政府の廃炉の決定に関して市長は納得できないという立場ですけれども、市長がもんじゅの廃炉の政府の決定、納得できるようになる条件というのを改めて整理して教えていただければと思います。
【市長】　納得できる条件ですか。納得できる条件というか、今ロードマップをつくるということでお話がありますけれども、廃炉というか、使用済燃料をどうやって出していくとか、使用済みナトリウムをどうやって出していくんだとか、廃炉措置の体制はどうするんだとか、そういうことときちんと決めてから本当は廃炉措置にするべきだったろうということを思います。
　今からそちらを検討されるということなので、検討されるものが納得できるかどうかが今はわからないので、わからないとしか言いようがないんですけれども。当然一番大事な

ところを求めてきたのに、何かあやふやなまま決められたというのは納得できないという立場のままですので、そこは立場上、納得できないというところがあります。

一方で、こうやって水素とかトンネルというのがあるだろうという話がありますけれども、政府のほうでそういう頭出しをされたので、それに対してはやはり何らかの反応をしておかないとだめなんだろうなということで、当然、今、敦賀市がやっていることなので必要ですということは言いましたけれども、基本的には、やはり立ち返って、廃炉措置に移行するに当たっての手続というのが不十分だというふうに思っています。

【記者】　ということは、まだどのような中身が出されるかわからないですけれども、それを見て、これで大丈夫だという確認ができれば、そのまま容認というか、ということになるというような考えでよろしいでしょうか。

【市長】　私、一番最初にお聞きしたときに、廃炉ということであれば、国策から外れるんだったら、そうやって１日で変わるんだったら１日で更地にしてくださいというお話もしました。そういうことを言ったにもかかわらず無視してやっておられますので、納得できるわけがないというところにいます。

【記者】　今、廃炉も含めて使用済燃料の話が出たんですけれども、敦賀市は、市長は県知事と同じように、やっぱり使用済燃料の中間貯蔵は県外でという形のお考えなんですかね。

【市長】　はい。福井県がそういう考えですし、私もその考えです。

【記者】　市長もその考え。

【市長】　はい。

【記者】　新幹線に変わるんですけれども、敦賀開業を６年後に控えて、新幹線駅というのを具体化していかないといけない時期に来ていると思うんですが、特急の乗り入れに関して、今、与党ＰＴの福井先行開業の検討委員会で検討されていると思いますが、これをやっぱり早く具体化してほしいというところが市としては求められていると思うんですが、特急を一体どのように乗り入れるのかというか、そこら辺、市長の考えというのがあったら教えていただきたい。

【市長】　私の考えというのは特にないというのが正直なところなんですけれども、今伺っていますのは上下乗り換えをするというふうに、基本的には上下で新幹線から特急に乗り換えるということを聞いています。それで効率のいい乗客の流動というのをされているというふうに思っています。ただ、その中で並行在来線とか、当然近隣市町から乗り降りする方たちがいますので、その関係で乗り換えも大事だけど乗り降りもお願いねというような立場にいるということです。

【記者】　そこでムービングウオークを要望されているということですか。

【市長】　そうです。

【記者】　いつごろまでに、はっきり国がやると結論を出してほしいみたいな。

【市長】　できるだけ早くというのが正直なところなんです。そうしないとなかなか敦賀駅の、今コンセプトを出しましたけれども、じゃ実際にそこにどういう線路がどういうふうに入るかということが決まりにくい状況にありますので、詳細設計に入る、また建築するまでというのは時間がありませんから、できるだけ早く決めていただきたいと思っています。

【記者】　使用済燃料について１問だけなんですけれども、知事とお考えが同じだということはわかったんですけれども、仮にの話で恐縮なんですけれども、例えばキャスクを使って使用済燃料を中間貯蔵するという方向が割と一般的に国外では行われていますけれども、そういう話がもし出た場合は、市長はかなり抵抗感があるんでしょうか。こういう聞き方はちょっとまずいかもしれませんけれども、キャスクそのものに対しての抵抗感とかはあるんですかね。

【市長】　基本的に、中間貯蔵とか外に持っていってくださいということは、立地地域が全てを負わなくていいでしょうという話をしているんだと思っています。ですから、どこでも持っていけるものだったら立地以外のところに持っていったほうがいいんじゃないですかということが基本的な考え方ですから。私どものところで中間貯蔵まで持っておく必要はないんじゃないかということを思っています。

【記者】　キャスクできたものであっても、それはダメと。

【市長】　ですから、原子力政策に対して、今、立地は何でそんなもの誘致したんやみたいなことを言われていますけれども、恩恵を受けた国民の皆さんはいっぱいいるわけですよね。だからその人たちがみんなで考えるべきことだというふうに私は思うんです。ですから安全性がどうのこうのという議論ではなくて、そういう立場で皆さんで考えるべきじゃないかなと思っていますけれども。

【記者】中間貯蔵について、どこの自治体でも、いろんな場で出てくると思いますけど、置き方に関して仮にそういう話が出た場合も、一応議論のまな板にはのってこないだろうというような感じ。移動できるものであっても、のってこないだろうと。

【市長】　外に出すべきでしょうという考え方の中にいますので。

【記者】　初めから置き場という話はないよと。

【市長】　キャスクだからどうのこうのとかじゃなくて、そういう議論はしていません。

【記者】　わかりました。

【秘書広報課長補佐】　ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【企画政策部長】　ちょっと訂正で、よろしいですか。

先ほど水素エネルギーの関係で、調和型の水素社会の形成計画ですけれども、３カ年と言いましたけれども、28年度と29年度の２カ年で策定予定でございます。

訂正させていただきます。済みません。

【記者】　結局、だからどこかしら企業を呼んでくる決意があるんでしょう。

【企画政策部長】　それはございます。計画に基づいて、どういったことを実行していけばよいかというか、例えば整備とかどういったものが必要であるかという必要条件といいますか、そういったものを洗い出した上で、整備した上で、企業が敦賀市に対して魅力を感じる、あるいは優位性を感じるといった段階で初めて企業が動き出すのではないか。それまでにある程度こういった、こちら側からのアクションも起こしていきますけれども、そうした中で直ちに並行して１年、２年ですぐ企業が来るかというと、産業団地と同じような形でなかなか難しい。いろんな条件が絡んでいますので、そういったものが多々ありますので、なかなか難しいのではないかというふうに認識しております。

【記者】　しかし、接近していかないと来るものも来ないですから。

【企画政策部長】　いろんなところから、企業に対して、そういった水素エネルギー関連

の企業に対しましていろいろアプローチとかは、もう既に行っております。
【記者】　ある程度わかっている話ですよね。
【企画政策部長】　そうですね。
【秘書広報課長補佐】　ほかによろしいでしょうか。
それでは、これをもちまして１月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

午後３時１分　終了